

月刊
いきいき道政報告
第 17 号

日本共産党 道議会議員
佐野 弘美

発行

日本共産党佐野弘美事務所

北区北 20 条西 5 丁目 2-27

Tel 011-299-6560

Fax 011-299-6670

根本的なアスベスト対策の見直しと

健康不安への対応を

道内の公共施設や学校で、アスベストを含んだ煙突用断熱材の損傷や落下が相次いで発生しました。札幌市内では区民センター等でボイラーが使えなかったり、小中学校では給食調理ができず、一時は一万人以上の児童生徒が簡易給食となるなど、影響が広がっています。

調査と申し入れ

札幌市北区区民センターでは、ボイラーのアスベストを含む煙突用断熱材が落下し、ボイラーと煙突を封鎖しています。

この問題を受けて 10 月 26 日、佐野道議は長屋いずみ事務所長、坂本順子地区委員長とともに北

区区民センターの調査に入りました。札幌市は、山本健晴区政課長らが対応しました。危険度「レベル 1」に指定されている「吹き付けアスベスト」につい



区民センター調査 奥中央佐野道議

て、市はルール通り年に一度の定期点検を実施していますが、「レベル 2」の点検ルールが定められていないアスベストを含む断熱材などについては、過去の点検記録がなく、いつから脱落していたか確認できないことがわかりました。

札幌市は大気汚染防止法に基づく、厳格な対応が求められるにもかかわらず、点検ルールも記録もないことは重大です。

佐野道議は、「これまでの対策では不十分。今後、対策を強化すべき」と訴え、長屋氏は「職員や利用者、住民もアスベストに暴露(ばくろ)された可能性がある。適切な対応を」と求めました。

札幌市へ申し入れ



札幌市へ申し入れ
右から二人目佐野道議

北区の調査をふまえ11月1日、佐野道議は北区住みよくする会代表の長屋氏とともに、札幌市に6項目に及ぶアスベスト実態調査及び被害対策と予防の徹底を求める申し入れを行いました。申し入れには伊藤りち子市議団長が同席し、札幌市は、環境管理担当高木浩部

長が対応しました。

高木部長は、これまで定期点検のルールがなく取り組みは始まったばかりであること、横断的な取り組みである「アスベスト連絡対策会議」を再開し、対策の強化に取り組みと表明しました。

10年前の吹き付けアスベストの問題以来、「対策会議」が何年も開催されていなかった事実に驚きでした。

長屋氏は「市民の不安解消に努めることとあわせ、専門医に相談して検査の検討や相談窓口の充実を」と訴えました。

学校に広がる不安
道議会文教委員会

佐野道議は、1日の道議会文教委員会で、学校施設でアスベストを含む煙突用断



文教委員会質問 佐野道議

熱材の落下が相次いでいる問題について質問しました。教育庁はアスベストを吸い込んだ可能性のある生徒や教職員の相談体制を整える意向を示しました。

文科省は2014年、「レベル2」のアスベストを含む断熱材について、学校施設での有無や損傷等による飛散の恐れについて全国一斉調査を実施し、その2年後の今年再調査を行いました。

札幌市教委は過去の独自のデータを転用して「問題なし」と回答、函館市教委はアスベストを含む断熱材の落下を知りながら、「劣化なし」と国に回答していました。その後も30を超える教育委員会で、調査の修正を申し出ています(4日現在)。

佐野道議は、「アスベストを吸引すれば、数十年後に中皮腫やじん肺を発症するリスクがある」と指摘、「健康状態のフォローアップ(経過確認)」を求めました。

村上明寛総務政策局長は「市町村教委が適切に対応できるよう指導助言する」と答えました。

アスベストは多くの建物に使われていると認識し直して、抜本的な対策の強化が急務です。これからも健康不安の解消に取り組みます。



道道名寄・遠別線 遠景

1970年代に国の事業で着工し、2010年に道の事業へ移管されましたが、未だ開通しないまま、工事費が膨らみ続けている、道道名寄・遠別線を調査しまし

道道 8^{キロメートル}短縮に100億円 これでいいのか名寄・遠別線

た。橋げたの高い橋梁やカーブが続く山道でした。

土砂崩れ対策、土壌汚染対策が必要という理由で予算が増額され、さらにこれからトンネル1か所、8つの橋梁工事が予定されています。

全長約100^{キロメートル}のうち未開通区間8・7^{キロメートル}の工事に、総事業費は47億円(うち道負担9・4億円)から4年で115億円(道負担23億円)と倍以上に膨れます。

すでに遠別市街地から国道40号線につながる道道がある上、8^{キロメートル}短縮されても、携帯もつながらない険しい道を安全に走れるのか、冬の除雪やトンネルの照明な



道道名寄・遠別調査 右から佐野・真下道議

ど維持管理費はいかほどか、などと思いつながら100億円を超える道路を視察してきました。

これまでも見直しを求めて議論してきましたが、今回の調査をもとに、これから道議会で追及します。

佐野事務所長交代の挨拶

長屋いずみに代わり 11月1日から齊藤修が勤めています。どうぞよろしくお願いいたします。



公共交通とは
 地方交通を考える

余市で行われた、市民団
 体主催の地方交通学習会に
 参加してきました。

国内外の鉄道を研究して
 多数の書を執筆し、各地で
 講演などを行っている関西
 大学経済学部宇都宮浄人
 教授が講師を勤めました。
 先生は地域の鉄路存続運動
 にも取り組まれていまし
 ました。

地域を支える鉄道など、
 公共交通に採算を求めるの
 は日本くらいで、海外では線
 路の維持は、国や自治体が
 担っているとのこと。災
 害による線路の流出に対し、

税金で復旧された事例など
 も紹介されました。

J R 東・J R 東海や首
 都圏の私鉄のように利益を
 上がるのは世界標準から見
 ると非常にまれで、J R 北
 海道は赤字は、海外の鉄道
 から比較すると少ないそう
 です。

北海道の道路関連予算は
 年間 2000 億円近くです
 から、その一部を使うだけ
 でも路線は維持、整備でき
 ます。道路の採算は度外視
 して、線路は軽視する道の
 姿勢が問われます。

北海道新幹線は、毎年 48
 億円の赤字が見込まれます。
 その赤字を理由に地方路線
 を廃止することは、北海道
 全体の危機につながります。
 地域の皆さんとともに、
 地方交通を守るために議会
 で粘り強く取り組む決意で
 す。

道政報告会

介護アスベスト等の意見交換

11 月 12 日、北区屯田で
 道政報告会を行いました。
 地元でもあり大歓声で出迎
 えられました。なお市政に
 関しては太田秀子市議に
 援をお願いしました

私は、4 人当選して会派と
 なり、委員会参加や質問時
 間が拡大した議員団活動に
 ついて報告しました。甚大な
 被害をもたらした台風・大
 雨被害について、国会議員と
 も力をあわせ、国や道に「被
 害対策の査定前着工」制度
 を措置させることができた
 こと、学校給食がとまったり
 被害が心配されているアスベ
 スト問題やガン対策・禁煙対
 策などで、道の取り組み強
 化を求めたことについて報告
 しました。

太田市議は、アスベスト
 問題・都心と新道を結ぶア
 クセス道路・国保料金引き
 下げ・要介護 1 ～ 2 の切り
 捨て・市営住宅建て替えな
 どについて、いのちと暮らし
 を守る市議団の活動を報告
 しました。

参加者からは、介護・アス
 ベスト・年金医療・泊原・オリ
 ンピックなどについての意見
 や質問が続出し、政治改革
 をめざす意見交換の場とな
 りました。



北区屯田における道政報告会